

コムシティ再生のあり方検討会 第4回会議 会議録

日 時：平成23年5月18日(水) 10:00～11:45

場 所：北九州市役所本庁舎5階 特別会議室A

出席委員：13名(斎藤会長、伊藤委員、上野委員、菅原委員、太田委員、中村委員、阿部委員、安東委員、池本委員、末広委員、寺坂委員、芳賀委員、林田委員)

会議次第

1. 開会
2. 報告事項
3. 議事
4. その他
5. 閉会

議事要旨

1. はじめに

会 長 この検討会は、全6回の会議開催を予定している。今回から後半に入り、これまでの議論の焦点を絞り込んで収斂させていくことが課題になる。第3回までは現状認識と、委員の再生に対する夢を語ってもらった。今回で完全に収斂できなくても良いので、現状認識、今までの議論を踏まえ、どのような方向性でコムシティの再生を考えたら良いか検討したい。収斂に向けて、第一歩を踏み出すというのが今回の課題であり、今日までの議論をまとめて、6月中に中間報告を行いたい。まず、これまでに出された意見のまとめを事務局から説明してもらおう。

<事務局から、会議資料により、第3回会議までのまとめを報告>

2. 第3回会議までのまとめについて

会 長 議論に入る前に、今の報告に対し、意見があればどうぞ。

委 員 大変まとまっていると思うが、1点、是非入れてほしいことがある。駐車場の出入口やバスの出入口、黒崎の町側から見たときの1階部分の入口の構築という意見もあった。そういう施設のイメージアップに関する意見もとり入れてほしい。

会 長 そうした意見も出たが、建物の改造や具体的な入居施設の議論は次回以降にやりたい。今回は、まず全体の方向性やコンセプトをどうするか議論したい。

委 員 コムシティは、黒崎の町にとって位置的なデメリットがある。3号線という川があり、コムシティに何を入れても黒崎の町にフィードバックしない。コムシティは、圧倒的にいる乗降客を取り入れるべきである。また、黒崎二丁目再開発の成否は黒崎の町に影響を及ぼすが、コムシティの成功、不成功は黒崎の町に大きな影響がないと思う。こうした意見を述べていたが、その取り扱いはどうなるのか。

会 長 コムシティは、町から隔離された空間になっており、町とどう連動させるのか、極めて大きな課題である。3号線の問題、そして建物の構造をどうすべきか。コンセプト、方向性がある程度出た後で、付帯意見としてまとめをしたい。

3. コムシティ再生の考え方、方向性について

会 長 今日の課題は、検討会の意見をどのように収斂するか、再生の方向性をどのように出すかということだ。市民が納得でき、我々も夢を描けるポジティブなものが生まれる流れをつくりたい。

 これまでの議論をどのように整理できるのか。収斂させる場合どのような道筋がありうるのか。コムシティ再生の考え方、方向性について、まず私から、私の意見も踏まえて報告し、大まかな流れをどう作っていくのか議論したい。

 <会長作成のメモをスクリーンに映写して説明>

会 長 今まで議論してきた中で、共通認識の第1点目は、コムシティの使い方を考える場合に、商業に特化しない方が良い。そして施設規模が大きいことを前提に考えると、コムシティは複合施設として方向性を出していくということ。第2点目は、コンセプトを定めた上で、コムシティからポジティブな情報発信ができる施設、利用方法を考えるべきではないか。黒崎、八幡西区、副都心の強みを北九州市、県内、全国へ発信できるものにしてはどうかということ。第3点目は、この建物は西鉄バス、筑豊電鉄、JR がクロスしており、自然に人が集まりやすい。そういう交通ターミナルの特性を活かしてはどうかということ。この3点が皆さんと議論した共通項として整理できる。

 また、外部環境を含めてコムシティの活用方法を考えていく必要がある。その場合、少子高齢化、人口減少は前提に考えざるを得ない。そして、今回の東日本大震災の影響を含めて、低成長経済を前提としたまちづくりの考え方。それから、NPO、ソーシャルビジネスの台頭。また、震災を契機として、地域、市民が主体のまちづくりの発想が大きくなってきており、従来型のコミュニティに代わる新たなコミュ

ニティ形成をどのように考えたらよいのか。これらが、活用を考える上で我々に与えられた課題である。

会 長 これらを踏まえて、これまでの議論を整理すると、大きくは2つの方向があり、一方の考え方は、北九州市全体を踏まえた上で、この施設の特徴をどう活かすかというもの。もう一方の考え方は、黒崎を中心とした八幡西区の住民の生活支援というもので、行政機能、あるいは、地域づくりや子育て等もかなり利便性に欠けており、それらを集約して地域住民の利便性を向上させるというものである。

会 長 北九州市全体を踏まえた考え方について説明する。都心副都心と言われて長いですが、副都心とは名ばかりで実際は中身がない。黒崎、八幡西区、この地域独自の都心機能とは何か。小倉には欠けている機能、北九州に不可欠な都心機能があるのではないか。そこに焦点をあて、都心との役割分担を自覚した施設、特定分野に特化できるコア施設をつくる。北九州市に欠けているものについて、皆さんからの意見を集約すると、教育、子育ての問題が出てくる。北九州市には、単なる教育、子育てを超え、人づくりを念頭においたソフト、具体的なシステムがない。北九州市全体として、人づくりをベースとしたまちづくりに取り組み、その拠点としてコムシティを考える。人づくりサテライトターミナルという捉え方、これはある程度情報発信できる考え方である。

具体的な機能としては、北九州市は少子化で若者が少ないので、子育て機能を含めて子どもの館を拡充し、ただの託児施設を超えたものがあると良い。教育機能としては、若い世代が仕事、技術を身につけて社会に還元するようなサポート機能がないので、大学と地元企業が産学官の連携で職業育成の場を考える。それから、高齢者を中心とした生涯学習機能もある。これらをトータルな人づくり支援拠点とし、ここに焦点を当てて、北九州市全体のまちづくりに貢献するコアとして考える。

当然、人づくりに関する広域行政サービス機能を付加することも必要だ。行政は国県市で分担されているが、人づくりを考えると、これらを統合した機能が必要だ。広域行政サービス機能を統合化し、トータルパブリックサービスを付加した施設を考えてはどうか。

会 長 次に、八幡西区の地域住民を対象とした考え方について説明する。この地域の住民を念頭においた総合的生活支援拠点として、職住接近を活かしたコムシティの使い方を考える。交通の拠点機能をベースとし、託児施設等を充実させることによって、地域住民、働いている人のための生活支援拠点として利用できる。また、既存の予備校や専門学校をここに集約させることで、街のにぎわいをつくるのが可能になる。地域に欠けている医療福祉関係、コミュニティ関係、世代間交流、多文化共生などをプラスし、さらに生活支援ということで、区行政を統合化したワンストップサービス施設として、この施設を使う方法もあるのではないか。

会 長 このように整理すると、問題は、市民全体のための施設にするか、地域住民のための施設にするか、二者択一の考え方。どちらも必要なものとし、メインとサブというかたちで統合化する考え方。または、両方を総合的に絡めてこの施設を使う考え方。これら3つの考え方があることである。

最後に、コムシティの使い方の課題として、この施設を明確なかたちで、どの方向で何をしたいのか、情報発信すると同時に、持続的、継続的に発展させていく必要がある。そのためには、マネジメント機能が非常に大切だと思う。主体的戦略あるいは継続的しかけは、主体がいないと動かない。コンセプトを持続させる人材育成が必要である。ハコモノとコンセプト、そのコンセプトに向かって螺旋状に動いていくマネジメントを用意しなければいけない。

私のまとめは以上なので、意見をお願いしたい。

委 員 副都心構想や既存の考え方にも、地域の拠点という考え方はあったが、コムシティを造るときに商業を優先してしまった。再生の考え方としては、今までのまちづくりの方向の延長線上にあると考えてよいと思う。やはり街のイメージが変わるためには20年は時間がかかると思う。長丁場になるが、黒崎もまちづくりを鋭意続けていくことが重要である。また、コンセプトを定めるにあたり、10年20年後、時代が変わり、郊外の商業施設が集客できなくなったときに、集客、商業の拠点としての役割は大事になってくる。コムシティの活用方法として、商業施設もある程度位置づけておく必要があると思う。

会 長 完全に商業を否定するわけではないが、商業がメインではない。コンセプトのつくり方で、商業の立地の仕方も将来的に変わるのではないかという意見である。

委 員 ものづくりの街と言われるが、ものをつくるのも結局は人であり、黒崎の新しい物語は新しい人づくりであって欲しいと思う。

一方で収益、採算性を考えると、子どもの館の利用者向けに商業テナントとして「赤ちゃん本舗」が必要だと思う。初めて子育てをする若い夫婦はもちろん、おじいさん、おばあさんにも使ってもらうことができ、既存商業施設との棲み分けも可能である。また、市の防災センターは老朽化しているが、福岡市では、明るく子どもたちが防災を学べる施設になっている。そのような、市の老朽化した施設で、子育て、人づくりと関連したものも組み込めるのではないか。

小倉のAIMに、国際交流センターの分室があるが、そうしたものへの潜在的なニーズもある。国の施設であるJICA九州は北九州市にあり、毎年多くの外国の方が学びに来ている。その方たちに、北九州市、日本のことを知ってもらい、国に戻って、北九州市、日本のことを広報してもらえないようにしないといけない。しかし、JICAの研修員が商店街に来て、店が閉まっていたり、日本語しか通じないなどの理由で、すぐに帰ってしまっている。まちのサポート体制が必要である。

反対に、日本の若者が海外に行かなくなってきたり、海外で交渉できる人材が育成されていないのではないかとこの危惧がある。日本に学びに来ている若者と日本の若者がコミュニケーションをとり、そこで国際感覚を身に付けることで、グローバルな人づくりに繋がるのではないかとこの思う。

会 長 JICA の立地は大きい。大学も多く、留学生も大勢いる。国際交流、国際化に向けた人づくりも考えないとこのいけない。

委 員 全市民のための機能をメインにし、地域住民のための機能も入れていく可能性は十分あると思う。コムシティは人づくりに特化した施設にできればよいのではないかとこの。

国際交流ということでは、折尾地区は留学生が多いが、一般人との交流ができていないのが実情である。また、区画整理事業が実施され、活動の拠点がなくなる折尾地区の住民にとっても、黒崎駅前のコムシティはとても重要な位置にあり、色々な人が集い、勉強し、学びあえる施設になると思う。区役所は今の位置で十分に機能すると思う。文化・交流拠点地区には、文化施設、図書館も建設中で、黒崎の商店街が頑張るって再生すれば、それらの施設は巡回できる範囲にある。

委 員 私は全市を対象とする案がよいと思う。色々な人に意見を聞いているが、料理や美容の専門学校から卒業生をどんどん現場に出すような、質の高いものに使えば良い。コムシティは交通ターミナルとしては良い場所で、黒崎外から帰ってるときは便利である。しかし、3号線を渡る気になれず、商店街側からバスセンターを使うのは不便である。タクシー業者は建物に近づけないとこの言っており、何に使うにしても、車が横付けできるように考えていただきたい。商業施設は、井筒屋や商店街があるので、よく考えなければ難しいとこの聞く。

長く閉鎖されているので、早く何とかしてほしい。

委 員 今日のまとめ方は、今後の収束方法としては良いと思う。ただ、全市民のための活用として考えると、人づくり拠点機能などは、コムシティだけではなく、市全体として、周囲からのサポートが必要なものだとこの思う。それがなければ前と同じことになりかねない。

地域住民向けの活用については、「あればいい」と「ないと困る」の二つに分けられる。もう失敗はできないので、現実を見て、全部が全部とは言わないが、本当に必要とされる施設をメインにしないとこのいけないと思う。そうでなければ、市民や地域住民は納得しない。収束のさせ方として、本当に黒崎に必要なもの、なくて困っているもの、代替では使いづらいものなどを考えてほしい。

会 長 この地域に不可欠なものを考えようということである。コムシティを点ではなく面として捉え、北九州市全体で、行政と連携を取りながら考えることが課題である。

委 員 委員の皆さんは商業施設という言葉で、物販施設をイメージしていると思う。今、黒崎は、長崎屋、トポス等大型商業施設の撤退で、ブランド品はもちろんのこと、日用品、子どもの下着さえも買えない状況である。しかし、日用品の物販施設は黒崎の町の中にあるべきだし、ブランド品は博多で買った方が楽しい。コムシティはもっと違った視点で商業施設を考えるべきだ。

 教育の問題で、約百年前、安川さんと松本さんが旧明治専門学校、現九州工業大学を創設し、北九州市のため日本のために役立ってきている。数年前にも、東工大の教授が、東北にすばらしい大学をつくっており、一流企業がリクルート活動をするほどのものになっている。理系の卒業生は就職1年目は役に立たず、まずは研修をするそうだ。企業が研修に要する経費を考えると、行政と企業が出資して、3ヶ月、半年教育し、就職後に役立つ専門教育を実施すればプラスになる。できる方向で知恵を絞れば、世界一のまちができると思っており、そのくらいの大きな夢を持ちたい。

委 員 コムシティは、電車やバスのアクセスは満たされているが、何に使うにしても、一般の人が車で寄り付きやすいようにしなければならないと思う。これが一番大きな問題だ。どうしても今の施設に入りにくいということであれば、近くに駐車場を用意することも検討する必要がある。3号線を渡る歩道橋が一箇所しかないことも問題だ。

会 長 アクセスの問題については、次回以降、具体的に話したい。

委 員 人づくりという意見には賛成だが、それを進めるリーディングパワーはどのようにするのか。地域の人々の力、アクティビティがなければ、施設をつくっても、そのアウトプットは地域と遊離する可能性がある。地域の人々の力、アクティビティの少なさをどのように補完するのか。市が補完すべきという意見もあるが、それだけではなく、大企業による地域活性化、大学の人づくり、親の教育、そういうまわりのリーディングパワーを組み立てていくことを考えないと、つくっただけということになる心配がある。従って、リーディングパワーをどうやって作り出すか考えながら収束することが必要だ。黒崎の問題に関わる方々は、人を頼りにする傾向があり、全てをお膳立てしないとついてこないという雰囲気がある。そのような住民のモラルを高める方法も考えないと、人づくりは失敗する。

会 長 リーディングパワーをどうするかというのは市全体の課題である。また、中心市街地活性化との連携もあるという意見だと思う。

委員 全市民のための考え方を中心に、地域住民向けの要素も取り入れた利用方法が良いと思う。人づくりのコンセプトは、協力体制が必要ということであれば、定着するまでどのくらい時間がかかるのか。定着しないと空洞化するという問題がある。また、高齢化に焦点をあてた利用方法もあるのではないかと。生涯学習などは、健康な方向けのものであり、もっと高齢化が進展したときに必要になるものにも着目して、使用方法を考えるべきだと思う。

また、北九州市のイメージアップのためには、どのようなものを入れたら良いか考えるべきである。暴力団等の北九州市の悪いイメージを払拭するためにも、北九州市にはボランティア活動をしている人がたくさんいることを前面に打ち出し、ボランティア活動のセンターをつくるというのはどうだろうか。北九州市立大学に地域創生学群というボランティアの学部があり、街にもボランティアをしたい人が多いのに、その仕組みと情報の提供、情報の共有ができていない。ボランティアの就職案内所のようなセンターがあると良い。また、子どものモラルアップのため、子どものころからボランティアに参加することも必要だ。現在ある青少年ボランティアステーションでは、小中高生のボランティアは、2005年は250人くらいだったが、2010年には6,000人にもなっている。震災の影響で、ボランティアに対しても、寄付に対しても、自然に行えるような土台ができつつある。「北九州市はボランティアの街」と、北九州市のイメージを良くするコムシティの使用法を考えていければと思う。

会長 市の特性、高齢化、そして北九州市で盛んになっているボランティアの可能性に焦点を絞った施設をとという意見である。

委員 市内には、自治連合会や婦人会など色々な団体があるが、どこも事務所がなく、役員個人の家に書類を保管し、役員の変更がある度に移動させているという状況だ。コムシティができた時も、空いている場所を利用できたら良いと思っていた。今回も、コムシティの一部を、そういった団体の事務所として貸してもらえたら良いと思っている。あまり高い家賃は払えないが、会議室は1つあれば団体が共同で使えるし、子どもの館のホールを借りれば少々の行事はできる。私は20年以上、小倉の女性センターに通いつめた。八幡西区に設けると、他区はどうなるのかという意見もあるだろうが、コムシティにそういう事務所、スペースがあれば、団体の拠点になって良いと思う。

委員 婦人団体等色々な団体があるが、八幡西区には活動する拠点がなく、小倉北区の婦人会館まで通っている。人づくりという点で、そういう団体、ボランティアの拠点をづくり、留学生や色々な方が集い、活動できるようにして欲しい。八幡西区で団体の会議を行おうとしても、子どもの館のホールは広すぎるし、区役所の会議室

は 100 人も入らず、狭すぎる。大会議室や、年長者が作品展示をできるような場所
もできれば、色々な方との交流、意見交換、情報発信ができると思う。

会 長 NPO、ボランティアなどの事務所として貸してはどうかという意見である。これ
にはネットワークとしての仕掛けが必要という問題もある。

委 員 市としても黒崎地域としても、トータルに必要なものを整備していけばよい。あ
る程度、地域から要望が出てきているので、優先順位をつけて盛り込めば良いと思
う。採用できないアイデアは、他のところで活用すればよい。

ハード面では、駐車場に入るルートを下地に造れば、人が歩くところも一緒にで
きて良いと思う。天神の地下街のように、バスを降りても雨に濡れずに建物に入れ
るルートがあれば便利だ。

委 員 市の財政もピンチだろうが、コムシティを採算に乗せようと思わず、更なる出費
を覚悟せよと申し上げる。賃料は限りなくゼロに近づけて考えるのが一番である。

JICA の国際研修センターは、自分も準備段階の責任者として関与していたが、海
外から大勢の前途有為な人材が来て、母国に帰って指導的な立場に立つという夢は
相当に達成されている。そして、多くの方が日本覇員になってくれている。これを
発展的に考えると、最近、中国、韓国、モンゴルからの留学生が多いので、中国
村、韓国村、モンゴル村といった国際村をつくってはどうか。家賃を無料に
し、そこで各国の物産販売なども行えば、留学生のアルバイト収入になり、人を集
めるしかけにもなると思う。

また、安川だけではなく、テムザックや、IT 関連のロボットもあるので、コムシ
ティにロボット広場やロボット公園があれば良いと、安川電機の方が言っていた。

会 長 コムシティの成功とは何かということと関係する。採算だけではなく、公益施設
として活用するメリットも大きい。そのあたりをどうするのかも大きな課題にな
る。次回あたりには、具体的な方向性を出すために、どのようなイメージの施設や
機能があるか議論したいと思う。

委 員 総花的な意見になるが、雇用の増加を打ち出すことは効果があるのではないか。
新しい雇用の創造もコンセプトに入れる必要があると思う。博多駅の再開発では
6,000 人の新規雇用が生まれたという話を聞いており、NPO もソーシャルビジネス
も一種の起業スタイルだし、新しいビジネスというより、あえて雇用を打ち出した
方が市民にアピールできると思う。

会 長 特別にビジネスと考えなくても、新たな雇用創造、そういった発想も必要という
ことである。

会 長 大きな方向性についての委員の意見は把握できた。方向性の流れとしては、全市民のための施設と地域住民のための施設の両方を踏まえながら、大きくは全市民を対象とする考え方、北九州市らしさを情報発信でき、小倉にはない都心機能を強化した、広い捉え方での機能づくりという方向でどうだろうか。地域住民向けが完全になくなるわけではない。どちらか一方を選ぶというよりも、全市民向けの機能づくりをメインにしながら、地域住民向けの機能も入れていく。ただし、情報発信するコンセプトの考え方としては、全市民向けをベースにして組み直すという流れで良いだろうか。

委 員 私は地域住民向けがメインだと思っている。コムシティが浮いてしまわないように、周囲のサポートがあるという前提なら、百歩譲って、全市民向けをメインにすることもあると思う。両方の考え方を取り入れるのは良いと思うが、小倉の人がわざわざ黒崎に来ることはないので、どちらかと言えば地域住民向けの機能が本当に必要とされていると思う。

委 員 両方の考え方が必要だと思うが、今の色々な環境を考えると、どうしてもコンパクトシティという考え方になるので、そういう中で再生に取り組んでいくためには、入口は地域住民向けの施設にした方が理解を得られやすい。黒崎の街の目標として、将来的には全市民向けの拠点づくりという考えはあった方が良い。

委 員 私は会長の案に賛成だ。理想論だが、北九州市、日本を見据えたものができれば外から人が来るので、そちらに重点を置いて良いと思う。もし地域住民の利便性を追求するなら、それはまちなか、黒崎二丁目周辺にあるべきで、コムシティにある必要は無いと思う。

委 員 その考え方の前提としては、3号線の南北をどう繋ぐかということが課題になる。

委 員 経済力、そして街の民力が落ちてくると、ボランティアやまちづくりに関わる体力が徐々に落ちてくる。会長から提案のあった2つの考え方で、どちらにも共通しているのは、全市民向けは広域行政サービス、地域住民向けは区行政のワンストップサービス、区役所が入るということである。団体の活動の場がないという状況や、北九州市西部の活力の元は何かということを考えると、やはり、八幡西区役所を含めた行政が中心になるのではないかと思う。行政に背中を押してもらわないと民力が活性化しない。これから民力が落ちてくる中で、行政が主役になり、私たちも全力を挙げ、経済界など各界も地域を後押ししないと、まちづくりは進まないと思う。

会 長 2つの考え方どちらかに重点を置くということではなく、短期長期という時間軸で捉える考え方もある。つまり、出発点は地域住民向けの側面を充実させながら、単なる地域の利便性を越えたものをここから発信していくことにより、中長期的には全市民向けを目指していくという考え方もある。私は、コムシティ問題は、北九州市民に本当に納得してもらえるかが一番大事であり、何か独自性を出さないと意味がないと思う。時間軸でコンセプトを捉えなおして、まとめていくということはどうだろうか。

委 員 リーディングパワーの問題もある。

会 長 検討していく上でのポイントは、ハコではなく、人であるという意見である。それを考えたときに、八幡西区に限定するのか、それを越えるものが必要か、皆さんともう少し詰めていきたい。また、いずれにしてもハードに関する意見が多い。この点については行政にも投資を考えていただきたい。採算性の問題も極めて重要であり、黒崎地域も含め北九州市をどう活性化させるかという長期的な視点でのメリットを前提に考え、今回の議論も踏まえながら、事務局と勉強したいと思う。

委 員 この検討会の最終目標は、最後に一つの意見に集約するのか。それとも10ある意見を3～4にして、市に上申するのか。最終的にコムシティに何を入れるかは市長判断になると考えていいのか。最終的には、能力、責任のある人間が色々な情報を得た上で決断すべきだと思う。その際、この検討会としては、意見をどのようにまとめるのか。

会 長 まとめ方はどちらでもよいが、相反する意見がまとまらない場合は、複数意見を提示する必要がある。しかし、この検討会の役割は、具体的な施設を決めることではなく、どのような方向性でコムシティを使うのか、その方向性を出すことである。完全にクリアな結論は出せないと考えている。次回、時間軸で捉える方がよいか、全市民向け、地域住民向け、どちらかにウェイトを置いた方がよいか検討したい。
結論として、一つのまとまった方向性を出すのか、あるいは2つ出すのかは、私に任せていただきたい。

4.まとめ

会 長 今日はコンセプトに近いものを議論した。今日までの議論を踏まえ、市長へ中間報告を出す必要がある。これまでの議論を、付帯的な要素も含めて、どのようにまとめるかは、会長の私に任せていただき、私の案を各委員の方々に確認してから、市長に報告したい。